

# 事例報告2

平成24年度生活者としての外国人のための  
日本語教育事業

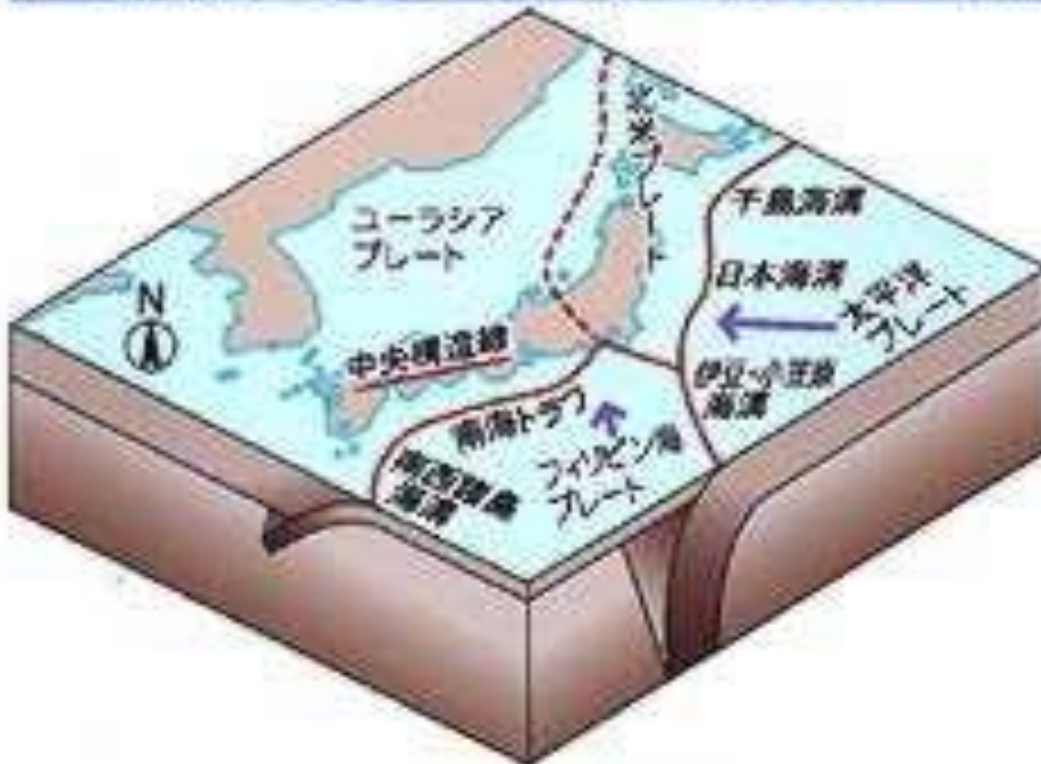
## 地域日本語教育実践プログラムB

国立大学法人高知大学  
人文社会科学研究科  
奥村訓代

# 高知が抱える喫緊の課題

- 南海大震災への備え

## 日本列島とその周辺のプレート



ここ30年以内

M9以上

36Mの津波

津波



# ー防災弱者としての外国人の問題ー

## ☆短期滞在者を含む生活者としての外国人の場合：

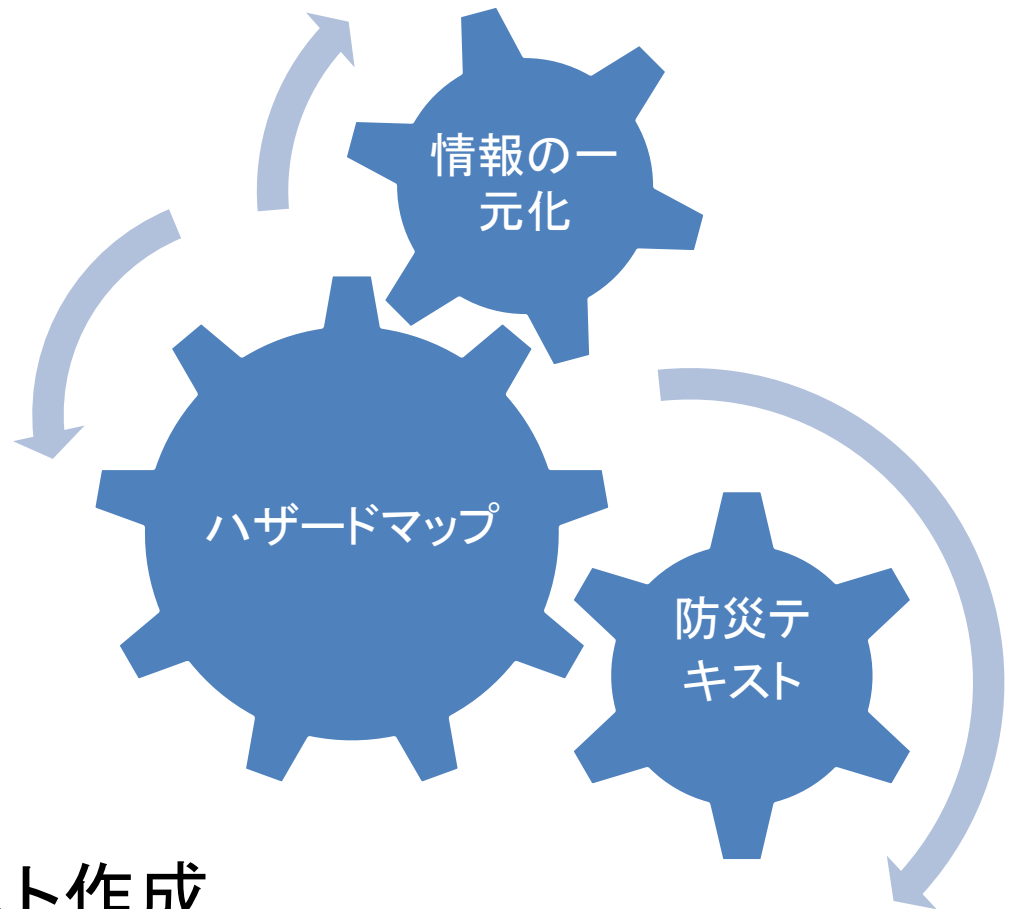
土地勘のない、日本語が流暢に話せない外国人が  
災害にあったら・・・

- ・今自分がどこにいるのかわからない
- ・今いるところが安全な場所かどうかわからない
- ・どこに避難すればいいかわからない
- ・けがをした場合、どこの病院に行けばいいかわからない
- ・身の安全が確保できたら、家族や知人に無事を連絡したいが、どうしたらいいかわからない。

⇒地域で生活する外国人の視点を加え  
どこで、なにを、どうするのかを共有する！

# 今回のミッション

- 1 点在する外国人情報  
と基礎日本語に  
関する情報集約
- 2 短期滞在者を含めた  
生活者としての  
外国人のための  
ハザードマップ作成
- 3 危機管理のための  
共有知識としての  
防災日本語テキスト作成



# 大学が地域連携に果たす役割

## 大学として活用できるリソース

- 外国人住民としての留学生
  - ⇒地域を知る先輩住民として
  - ⇒外国人としての視点
  - ⇒多言語(母語)での情報提供
- 防災国際ボランティアの育成
- 避難所としての救援基地活動

# 標準的なカリキュラム案の考え方

## <目標>

- 日本語を使って、健康かつ安全に生活を送ることができるようにする

## <考え方>

- 体験的に学ぶ(経験・知識の共有)

- 「エンパワメント」

⇒弱者からの脱皮

自分が貢献できることを知り実践することにより、地域社会の一員として自立・参画

- 地域との共生

## 取組2.

### 短期滞在者を含めた

### 生活者としての外国人のためのハザードマップ作成

#### ーハザードマップの現状ー

- 日本人対象のハザードマップが主である。
- 従来のハザードマップは、各項目ごとに特化しているため、ほしい情報毎に集めなければならない。
- 必要な情報（海拔・津波の高さ・避難所・貯水池・外国語の通じる病院・警察・国際電話ボックスなど）が1つにまとめられたものがない。

# 従来のハザードマップ

- 津波に特化したマップである(高知市)



# 外国人のためのハザードマップ作成 — 目的と意義 —

- ①生活者としての外国人のほか、観光客を含む  
短期外国人も対象とする
- ②外国人の視点で「見てわかる」ハザードマップにする  
例：記号化・色分け・外国人特有の情報
- ③不慣れな土地でも、災害弱者である外国人が  
自分自身で避難し、身の安全を確保できるようにする。

# —今回のマップ作成—

対象者：（短期滞在者を含む）

生活者としての外国人

地 域：高知市内5ヶ所

—高知城・県庁・市役所周辺

—高知駅周辺

—桂浜周辺、—上町周辺

—高知大学朝倉キャンパス周辺

# 今回のハザードマップのポイント

## 1 地図上に、「必要な情報」だけをまとめて表示する

\*「必要な情報」:

海拔、避難所、病院、警察、公衆電話・トイレなど

## 2 「必要な情報」を文字化せず、記号で表示する

## 3 記号は、色分けする



: 津波避難ビル



: 警察



: 病院



: 避難場所

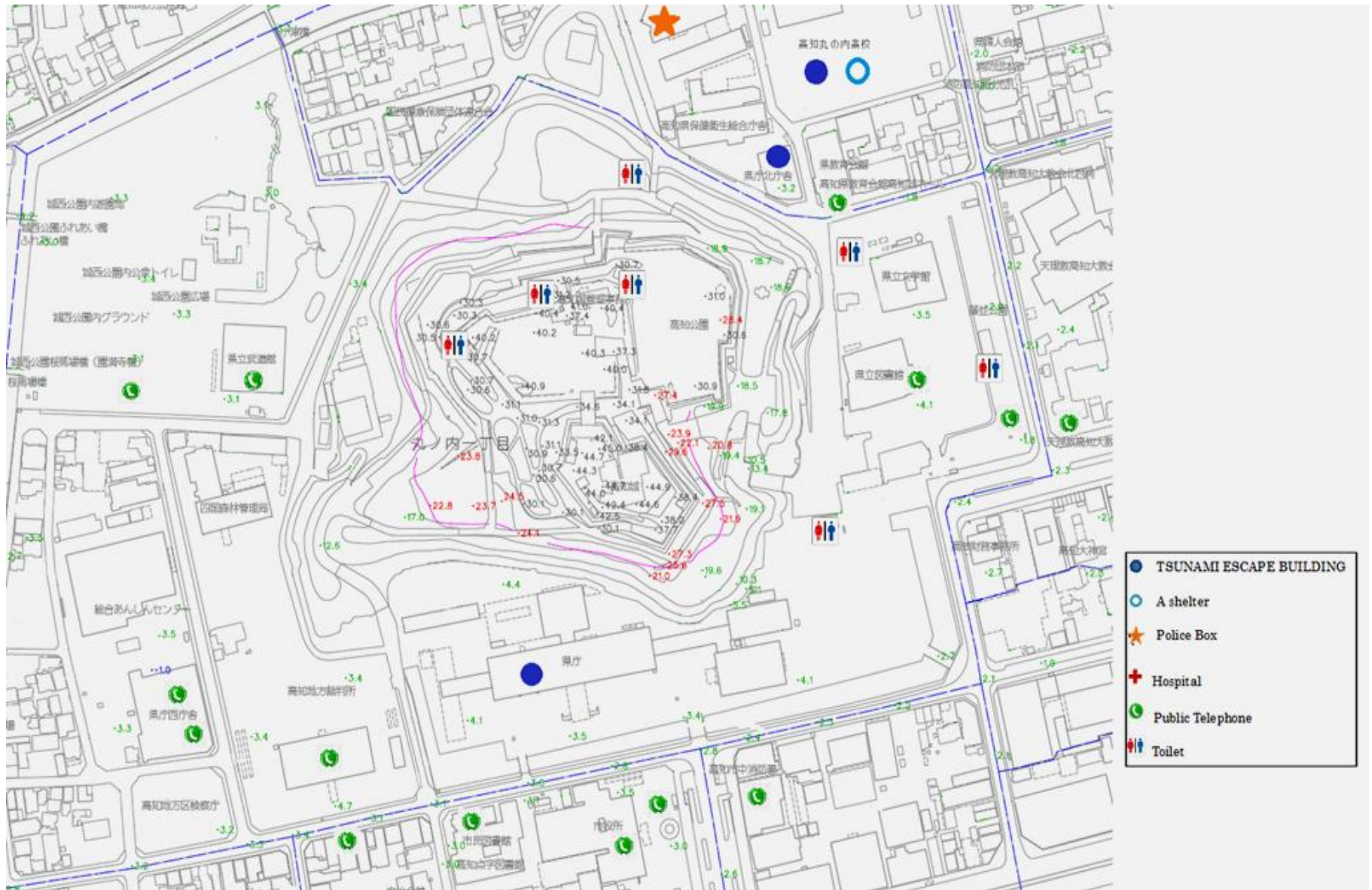


: 公衆トイレ



: 公衆電話

# 例：高知城周辺



# 取組1. 防災日本語テキストの作成

対象：地域住民と生活者としての外国人

構成：相手の日本語力に合わせた知識の共有

活用方法：住民が共に学ぶ

作成に関わった方：高知大学留学生

日本語教育専攻大学院生

日本語教育担当者

（高校・大学・専門学校）

NPO, 市町村防災関係者

# 目次(もくじ)



いま  
0:今すること

じこしんだん

1: 自己診断チャート.....12

じぶん し はじ

「自分を知る」から始める

2: 初級:(しょきゅう) .....15

きほん ぶんけい

基本10文型によるコミュニケーション

3: 中上級(ちゅうじょうきゅう) .....28

★状況別対応術(じょうきょうべつ たいおうじゆつ)

★諺利用(ことわざ りよう)

し たす ぼうさいちしき

4: 知って助かる「防災知識」  
——知ってるつもりで知らないこと——.....38

★100円ショップで揃(そろ)える防災グッズ

★新聞紙が防災グッズに変身!

★震災(しんさい)カルタ

★どんな時、どこに逃(に)げるのか/マップ記号説明

★情報・連絡手段(じょうほう・れんらくしゅだん)



たんき たいざい  
短期滞在

がいこくじん

外国人のための

ぼうさい

防災テキスト



H24年度文化庁受託事業:

高知大学人文学部  
奥村研究室



# 今すること①



津波

家屋の倒壊

土砂崩れ

地震

火災

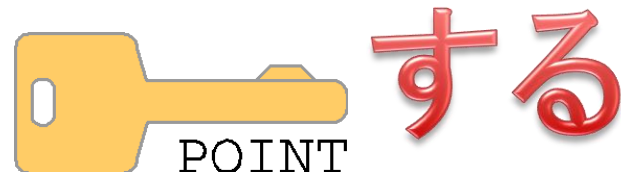
交通の麻痺

通信機能の麻痺

液状化



## 今すること②



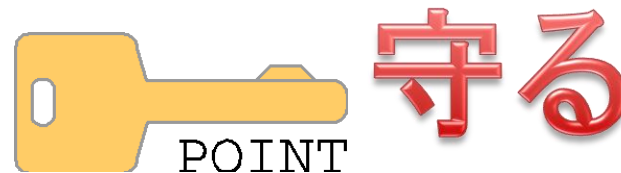
既存のテキストに対する問題点

1. 情報を提供しているだけで、終わっていないか？
2. 避難所を実際に確認しているか？



インプットだけでなく  
アウトプットを意識した  
体験・活動が必要!!

# 今すること③



- ・阪神淡路大震災
- ・東日本大震災



などの事例から

**避難所での生活で起こりうる問題**

1. 男女・年齢・国籍・文化等による 必要な物や考え方の違い
2. 言葉、習慣、価値観、宗教に関する諸問題
3. 「助け合い」の概念の相違確認

⋮

# まとめ

生活者としての外国人のための防災教育

特に我々が行おうとしているのは、

## 今すること①

高知県の災害について、その危険性に気づく

## 今すること②

得た知識を実際に体験する

## 今すること③

助かった命を守るため、避難所での生活について考える

## ◎防災 いろはカルタ（あ～こ）

あしもと きけん くつ  
あ：足元は 危険がいっぱい 靴はこう

いのち たいせつ ほか  
い：命より 大切なものは 他にない

うえ きけん とつぜん ふ  
う：上からも 危険は突然 降ってくる  
えがお きょうりょく ふべん ひなんじょせいかつ

え：笑顔と協力 不便をしのぐ 避難所生活  
おき なみ ま め まえ

お：沖の波 あっという間に 目の前に

がいこく ぶんか しゅうかん きょうゆう  
か：外国の 文化 習慣 共有を

く きょう あす あさって  
き：きつと来る 今日か明日か 明後日か

くるま は いそ ひなんじょ  
く：車より 走って急げ 避難所へ

けいこ くんれん い とき  
け：稽古した 訓練が活きる もしもの時  
こんどほんとう く なんかいだいしんさい

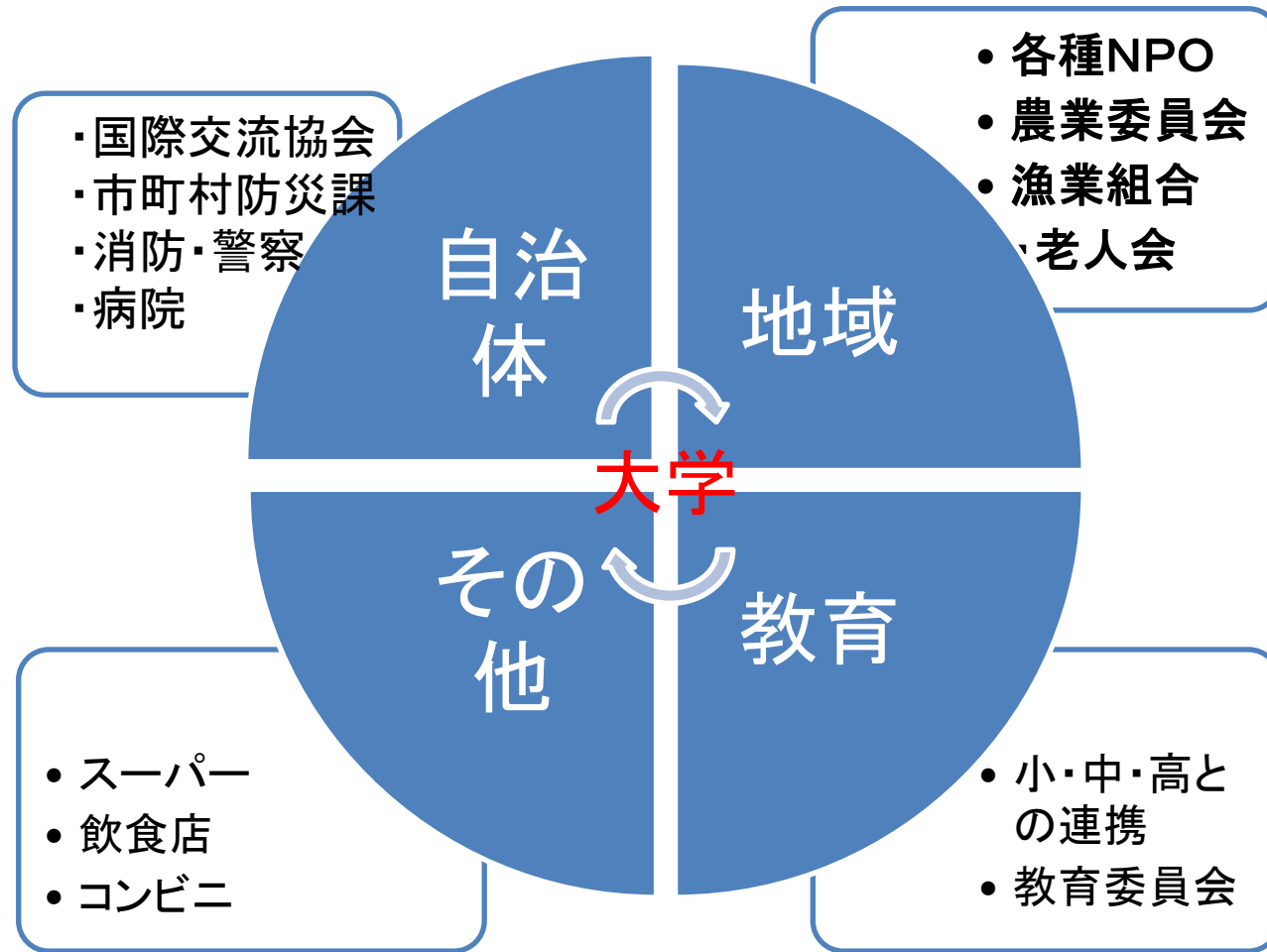
こ：今度こそ 本当に来るぞ 南海大震災



# 連携・協働の効果

- 生活者としての外国人・留学生の地域住民としての意識の芽生え
- 生活者としての留学生の地域社会への参画
- 日本人住民側の外国人住民に対する意識の変化と認知
- 大学・自治体・地域住民・学校とのネットワーク強化
- 大学の地域貢献

# 大学と地域の連携図



# 連携・協働の例(1)

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業  
地域日本語教育実践プログラム研究発表会

## The 防災 ～中・高・大の連携を模索する～

■日 時：2013年3月10日(日)

受付 13:00～

講演 13:30～14:20

学生発表 14:30～15:30

教員発表 15:40～17:00

■場 所：高知大学朝倉キャンパス人文学部棟5F 第1会議室

(高知大学朝倉キャンパス交通案内 <http://www.kochi-u.ac.jp/JA/m/aoc.html>)

■基調講演：演題『学校防災の必要性』

講師 宮田 龍(高知市立潮江中学校 校長)

■研究発表：それぞれの取組1(学生発表)

- ・高知市立潮江中学校
- ・高知県立高知工業高等学校
- ・高知大学人文学部

それぞれの取組2(視点とポイント)

- ・中学の場合：高知市立潮江中学校
- ・高校の場合：高知県立高知工業高等学校
- ・大学の場合：高知大学人文学部

■受講対象者：どなたでもご参加いただけます(申し込み不要)

■主催：高知大学人文学部(文化庁委託事業)

■共催：日本比較文化学会(日本語・日本文化部会)



### 【お問い合わせ先】

〒780-8520

高知県高知市曙町2丁目5-1

●文化庁委託事業責任者

高知大学人文学部国際社会コミュニケーション学科

奥村研究室 TEL:088-844-8205

●高知大学人文事務室

TEL:088-844-8172, FAX:088-844-8354

E-mail:ks22@kochi-u.ac.jp

# 連携・協働の例(2)

## 南海地震・備える:4カ国語で「警戒を」

### 高知駅にポスター、市立潮江中学生が作製／高知

毎日新聞 2013年08月30日 地方版

- ・ 高知市立潮江中(宮田龍校長)の生徒が、海外からの観光客や県内で暮らす外国人に南海トラフ巨大地震への警戒を呼び掛けるポスターを作製、29日にJR高知駅に渡した。9月4日まで構内に掲示される。
- ・ 同中は東日本大震災が発生した11年に「南海地震に備えよう」と呼び掛けるポスターを作製し、生徒らが小学校で災害への備えについて教える「出前授業」などで約3000部を配布してきた。
- ・ 今回は生徒らが、高知大の留学生や同中の外国人生徒らの協力で、ポスターを英語、中国語、韓国語、スペイン語の4カ国語に翻訳。「南海地震は必ず起こる」「津波から身を守る」など11項目をイラスト入りで説明し、災害の際に言葉の壁などから「災害弱者」となる外国人に備えの必要性を呼び掛ける。
- ・ ポスターを中国語に訳した同中3年の陳其龍さん(14)は「私も日本に来るまで津波や地震の恐ろしさは分かりませんでした。観光客や留学生の助けになれば」と話していた。  
【岩間理紀】

# 今後の課題と活動

- 高知市全域、高知県全域の対象者に応じたハザードマップと、共に学ぶ防災テキストの作成。  
(母語との併記も視野に入れ)
- 短期外国人の所属先・観光協会・観光地・駅・旅館・ホテル・公共施設に、ハザードマップの設置。
- 小・中・高・大および地域の各種施設等との連携の充実と拡大を図る。(出前授業や国際交流会)